

## 滋賀県

大切にされる未来の水へ

滋賀大学教育学部附属中学校 二年

折原 明日香

あなたは、毎日使う欠かせない水に感謝しているだろうか。そして、日本には、「水があることが普通」と知らない間に感じている人が多いのではないか。だから、日本以外の国の生活用水の現状について、一人一人が知ることが大切だと考える。

私が三年間住んでいたペルーには、飲める水と飲めない水があった。水道水が飲める国は、世界で少なく、ほとんどの国が、蛇口から出る水が飲めないのだ。私はこのことを後から知ったが、日本から来た私にとっては衝撃だった。飲料水はスーパーで箱で買い、コックをあけて水を出す。水がなくなる前に買いに行かないと生活できなくなる。食器を洗ったり、シャワーを浴びるのは蛇口から出るお湯だった。お湯が出るのはよかったが、シャワーを浴びるのは、タンクにたまっている分しか使えなかった。家族全員が入るには、時間を空けないと、タンクにお湯がたまらなかつた。そんな中、私は「不便で嫌だ」と思っていた。

しかし、テレビであるニュースを見た。ネットを立てて、霧の水滴を容器に集めて使っている。それは、水道の通っていない地域のことだった。自分でさえ不便だ、嫌だと思っていたのに、自分よりも水を得ることに困っている人たちがいるのだ。私は、水が飲めて使える地域はとも少なく、水はあることが当たり前なのではないと感じた。

滋賀県の国分町。それは、今の私の家がある町だ。家の近くには美しい田んぼや用水路がある。しかし、用水路に目を向けると、ゴミ袋や空き缶が捨てられていて、この用水路や周りの自然にはたくさんの動物や虫、植物がいる。捨てられているゴミは、動物や植物にとってよくない存在だ。流れている水が汚

れると、清潔な水環境で生息できる動物や植物は見られなくなるだろう。だから、私はゴミを捨てる人を許せなかつた。そして、なぜ捨てるのかと思った。動物や植物がいるからこそ、水がきれいな状態で循環していくのだ。彼らがいるから見られる景色がある。

「水に対する感謝の気持ちが薄れている。」新潟県出身の祖父はこう教えてくれた。新潟県はお米の生産が日本一の県で、用水路や川の水はすべてお米に使われる、と考える人が多い。また、そこに流れている水で育ったお米を「私たちが食べる」と思っている。だから、農家の人や自然が豊かな地域の人は水を清潔に保とうとしている、と家の近くの用水路の横で話してくれた。しかし、よく考えてみると、私たちはお米を食べるが、農家の人は少ない。また、最近田畑が減っていることで、流れている水がどこから来てどこへ行くのかが感じにくくなっていると思った。そして、その流れている水からできる作物を食べている、という意識が薄れ、祖父が教えてくれた「水に対する感謝の気持ちが薄れている」のだと感じた。

私の住む滋賀県には日本最大の湖、琵琶湖がある。水が豊富で、きれいだ。そして、ヨシなどの植物や鳥、魚などの動物が生息している。蛇口をひねれば、水やお湯が出る。けれど、その出てくる水は無敵にあるものではない。身の回りの自然、川や湖、海からいただいたものなのだ。多くの国では水道が通っていない地域があり、水道水を飲めない。だから、蛇口をひねれば水が出て、飲めることを当たり前だ、普通だ、と思わないでほしい。そして、私たちの周りにはどこから来ていて、どこへ行くのかを考え、外国や他の地域の生活用水の現状を知ることが大切だと考える。

未来の水がきれいに保たれ、すべての人が水に対して感謝の気持ちを持ち、大切にされる存在であってほしい。そのためには何ができるのだろうか。一度考えてみてほしい。